

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成30年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1-				
重点項目	学習活動			
重点課題	自ら学ぶ学習態度の育成と基礎学力の定着、わかる授業の推進			
現 状	<ul style="list-style-type: none">・生徒達には、自ら学習する態度を身に付けさせることが必要である。そのため、各教科・科目の担当者は授業において、生徒の実態を踏まえながら、指導方法の工夫・改善を進めて分かりやすい授業の推進を図るとともに、生徒の自主的な学習態度の育成と学習意欲の向上を図る必要がある。・義務教育範囲の学力が未定着であるとされる生徒(Dゾーン)が40%程度(1月の基礎力診断テストで1学年41.0%、2学年41.4%)おり、その中でも最低レベルのD3ゾーンに1学年15.8%、2学年8.7%いる状況である。Dゾーン、特にD3ゾーンの生徒は基礎的な学力が不足していることから、授業について内容を十分理解できないことが考えられる。中学校までの基礎的な学力を確実に身に付けさせる必要がある。・各種検定や資格の取得に向けた補習を実施するなどして、生徒の資格取得への積極的な取り組みを促し、自ら学習する態度の育成を図っている。			
達成目標	基礎力診断テストの実施と分析	授業の『質向上』のための授業アンケートの実施		
	<ul style="list-style-type: none">・1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。・D3ゾーン(義務教育範囲未定着とされる最低ゾーン)の割合を0%とする。	<ul style="list-style-type: none">・担当授業の生徒に対して、年1回以上理解度アンケートを実施する。・また、ほぼ定着した他の教員の授業を見学する互見授業も実施する。		
方 策	<ul style="list-style-type: none">・基礎学力向上委員会の設置。・基礎力診断テストの結果を踏まえ、情報交換し関係教科で連携し対策を講じる。・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習を行わせる。・朝学習を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none">・授業アンケートにより、生徒自身に学習態度の振り返りをさせるとともに、指導内容の理解度や意欲を把握する。これにより改善点を見つけ、よりわかる授業へ改善する。・実施率向上のために各学期に授業アンケート実施月間を設け意識向上を図る。・互見授業を実施し、自身の授業を改善する。		
	達成度	<ul style="list-style-type: none">・基礎力診断テストを1年生の2, 3学期、2年の全学期、3年の1学期に実施した。・2学期の結果は、2年生は1学期より国数英の結果が2段階(D1→C3+)向上し、D3の生徒も34人から14人と大幅に減少した。1年生は、今年の生徒より1段階(C3+→C3-)と1段階下がったが、D 3の生徒は27名と1名減っている。・数学のD3の生徒は2年生9名、1年生14名であった。	<ul style="list-style-type: none">・授業評価は、教諭55名で29回実施(1人あたり0.53回)。昨年は1人あたり0.83回。・授業見学は、教諭55名で85回実施(1人あたり1.55回)。昨年は1人あたり1.05回。(1月末)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・担任が中心となり、火金に1～5組は英数を、6, 7組は国英を行った。・休業中は、基礎力確認テスト向けの問題集を課題とした。・基礎力確認テストで数学がD3となった生徒には、補習を行うことを告げ、取り組ませた。・2学期の基礎力確認テストで、数学がD3の生徒に補習を行った。	<ul style="list-style-type: none">・生徒の取り組み状況など、生徒自身への評価の項目を設けた授業評価アンケートを公開したが、あまり多くの先生方に活用されなかった。・今年度、新たな学び創造事業とICT教育推進事業の拠点校として、公開授業を行い授業見学をする機会があり、昨年よりも見学回数が伸びた。		
評 価	C	国数英(2学期)の平均で、D3ゾーンの生徒が2年生は前回より大幅に人数を減らしたが14名、1年生27名であったため。	授業評価 D	<ul style="list-style-type: none">・昨年よりも実施の回数が減った。また、実施された先生も27%であった。
			授業見学 C	<ul style="list-style-type: none">・実施の回数が増えたが、実施された先生は78%であった。昨年の58%より向上したが、100%を目指したい。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・朝学習の対象教科が増えることについて、時間が現行のままであれば詰め込み学習になると思う。子どもたちには今後の学習における課題、将来について客観的に考えられるよう、振り返りの時間や意識付けも必要だと感じる。・朝学習について、数学におけるD3とは具体的にどのようなレベルであるかを知りたい。			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・数学D3の生徒の内、6, 7組の生徒は2年生で56%、1年生で36%であった。朝学習では6, 7組は国英の実施であり、数学も加えたい。1～5組についても、文を読み取る力をつけるために国語を加えたい。朝学習を全クラス国数英の3教科にすることを検討し、火水木の3日間集中して行い、学習習慣・自主的に学習する力を身につけさせたい。・今後は新しい学びに向けた授業改善に取り組まなくてはならない。生徒からの評価だけでなく、自らも授業を見直し、改善していかなければならない。授業の自己評価、自己点検ができるチェック用紙など作成し、配布したい。			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成30年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-

重点項目	学校生活 ～自律から自立へ～			
重点課題	基本的な生活習慣の確立と危機管理能力の育成			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯・タブレットなどの普及に伴い、生徒の取り巻く環境には事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携であるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかしながら、SNS環境はますます複雑になっており、常に情報収集を行い、生徒の危機管理能力の向上に努めていかなければならない。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数は、昨年再び目標件数を大きく上回った。幸いに、大きな事故は起きていないが、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からない。また加害者になることも限らない。常に命の大切さを伝え、正しいモラル、マナーを伝えていき、生徒自らが危機管理の意識を高めていくように指導していかなければならない。 			
達成目標	ネットパトロールの報告件数の削減		交通事故件数の削減	
	・年間報告件数 20件以下		・年間5件以下	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎にSNSに関する情報提供 ・「心」の教育、モラルとマナーの指導 ・携帯安全教室の実施(1年生) ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施 ・個別指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎に交通安全指導 ・自転車点検による安全意識の向上 ・交通安全教室の実施(1年生) ・個別指導 	
達成度	・報告件数 1件(1月25日現在)		・事故件数 7件(1月25日現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯安全教室の実施 ・集会毎に、SNSに関する情報提供 ・個別指導 ・「心」の教育 モラルとマナー指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の実施 ・集会毎に、交通安全に対する意識の向上 ・自転車点検による安全意識の向上 	
評 価	A	ネットパトロールからの報告件数はかなり少ない数であった。	C	軽い接触事故が大半であったが、昨年と同等の件数であった。歩行中が0件、自動車同乗中が1件、自転車運転中が6件である。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話・スマートフォンを使用したネットトラブルについて耳にすることが多い。インターネット上の情報は非常に高い拡散性を持ち、完全に消去することは困難であり、個人を特定することも容易である。生徒にはその危険性をよく伝えて欲しい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・常に生徒には「いのち」の大切さを伝え、SNSに関する情報提供、危機管理意識の大切さを伝えていく、危機管理能力の育成が必要であると考えられる。また、生徒の様々な状況把握のためにも、県教育委員会とは連携を図り、全体指導、個別指導と様々な対応が必要と考えられる。 ・交通安全に関する指導も、加害者、被害者になることへの注意喚起、モラル、マナー指導、「命」の教育などを徹底していかなければならない。 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成30年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -3-

重点項目	進路支援		
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学で名前を出されても、どのような生徒か把握していない状況がある。 ・進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えているが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約132名が民間企業への就職を希望している。 ・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成27年度8人(127/135)、平成28年度9人(116/125)、平成29年度4人(139/143)であった。 	
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)	
	1000回以上(一人平均3.7回以上)	8人未満	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。 ・進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。 ・3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各企業が求める人物や適性などをしっかりと、生徒に知らせる。 ・適性検査を実施して、その結果より本人の適性、能力について考えさせる。 ・面接時に本人の魅力や考えを十分に伝えられるように指導する。 ・多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導室の延べ利用回数 ＜就職者＞ 進路指導室 357回 1F選択教室 263回 ＜進学者＞ 進路指導室 459回 合計 1079回 達成度107.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次選考での結果 受験者 132名 内定者 128名 不合格 4名 内定率97.0% 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年末に進路指導室の利用について、各クラスごとに進路指導室および選択教室にどのような資料があるか、また、その調べ方などのガイダンスを行った。 ・平日頃より生徒への声かけをして、進路について考えさせるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般常識テスト、クレペリン検査の実施。 ・外部講師および職員による面接指導。 ・求人票受付時の聞き取りに企業が求める人物・適正の掌握および学年との情報の共有化。 ・企業への求人依頼。 	
評 価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の生徒(2名)の訪問回数が多く有り、目標を達成できたにすぎない。 就職者の47.1% 進学者の47.5% の生徒が進路の選択にあたり、進路指導室の担当者との相談をしたり、情報の提供を受けたと回答したが、昨年より数値は低下した。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次選考での不合格者数が4名となり、目標を達成した。 	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の特性を活かした就職先を開拓してほしい。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットやHPの確認で済ませたのか、進路指導室で資料の確認をしていない生徒が、就職者で71人、進学者で98人が進路指導室の利用をしていない。 ・就職では、企業のパンフレット等を調べた生徒の数が少ない(69件)ので、より多くの情報をとらえるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上に努める。(学期ごとの基礎力診断テスト) ・各種テストや検査結果の情報および生徒情報・企業情報など学年との連携を強化する。 ・早い段階で明確な進路目標を設定することによる意識付け、取り組み、指導を強化する。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成30年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -4-

重点項目	学校生活		
重点課題	学校行事および部活動の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にはアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが、事前準備や議会の活性化など十分とはいえない現状にある。 ・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は98%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や自主性が低いなどの悩みを抱えている部も散見される。昨年度は約43名の退部者(内13名が部変更)が出ているが、今年度も昨年並みに抑えたい。 		
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動変更生徒数	
	85%以上	40名以内	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに、アンケートの集約を行い、満足度を調査する。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動および生徒議会の活性化を図る。 ・各行事における教職員の体制を常に検証して、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。 ・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べる。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。 		
達成度	満足(A)+ほぼ満足(B)で評価 ・運動会 A51.9%+B42.8%=94.7% (昨年比+2%) ・尚美展 A34.7%+B46.4%=81.1% (昨年比-4%) ・球技大会 A45.4%+B40.9%=86.3% (昨年比+1%)	部活動変更生徒数 1学期→3学期 26名退部(8名部活動変更) ※昨年度30名退部(7名変更)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の内容について、生徒会執行部による事前アンケートを全生徒に実施し、その結果をもとに計画を作成する。行事後にアンケートをとり、次年度へ反映させることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校での表彰伝達、壮行会。 ・本校生徒の新聞掲載の記事の紹介。 ・職員の朝礼で大会成績の報告。 	
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の満足度は94.7%であった。とても高い満足度であった。テントを増やすなど熱中症対策も必要である。 ・尚美展の満足度81.1% 80%を超える満足度ではあるが、内容の充実が図れるよう検討を行っていく。 ・球技大会の満足度は86% 生徒が充実感を持てるよう内容の充実を図るよう検討していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は26名の生徒が退部し、うち8名が新たな部活動に変更した。 ・全体の部活動加入率は高いものである。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動(運動部)の成績を知りたい。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の反省点をまとめ、改善点を次年度に反映させる。 ・特活部の職員間の連携を密にし、協力体制を整備する。 ・行事の前には生徒の意見を取り入れ、充実感や成就感が体験できるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・退部者の確認とその後の学校生活の充実を図るための面接を充実させる。 ・女子運動部の活性化。 ・指導方針、活動内容の充実を図る。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化			
重点課題	PTA役員会とPTA行事の活性化			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの役員会では、行事等について積極的な話し合いが行われている。 ・PTA各行事への参加者が会員数に比べて少ない。 			
達成目標	役員会の出席率	PTA行事への参加者数		
	出席率70%	昨年より10%増		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA通信や学校のホームページを利用して活動を積極的に発信する。特にPTA行事の際は案内を各家庭に送るだけでなくホームページを利用して情報を受け取ることができるようにする。 ・一斉メールを活用した情報の共有を推進する。 ・役員より行事参加のはたらきかけを積極的に行う。 			
達成度	平成30年度 役員会出席率 72% (4回の平均)	参加者数を前年度を100%とすると、公開授業107%、進路指導研修会165%、教養講座55%、自然探勝会140%		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会長や委員長を中心に役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい会合になるよう心がけた。 ・役員会の開催連絡については、担任の協力を得ながら、個別に連絡が確実に保護者に届くように行うとともにHP等を利用して広く周知をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事についての連絡を、案内状だけでなく事前に一斉メールや学校ホームページを利用しておこなった。 ・担当役員から、行事参加のはたらきかけを積極的に行った。 		
評 価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会4回(正副会長会議、全体役員会)の平均で目標の70%をこえた。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4行事中3行事で前年度より参加者が増加、2行事で10%以上の増加であったが、増加率が届かなかったのが1行事、減少が1行事であった。 		
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対策でPTAとして、防犯カメラを設置したが、その後の状況について知りたい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のPTAは、生徒の安全・暗視のため防犯カメラの設置や、冷房機の導入を決めるなど積極的に活動を行った。次年度もこのような活動が継続できるよう役員会と協力しながら活動を行っていききたい。 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)